



特定医療法人

# 鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス  
<http://www.goodream.co.jp/hoyukai/>

第18号

発行 / 2007年10月15日  
特定医療法人社団 鵬友会  
発行責任者 /  
事務局長 池島 守

## 地域連携の強化に向けて

～ 老人センター病院への構想 ～

新中川病院 院長 福田 千文



前号では、ほうゆう病院 新院長の小阪憲司先生の意欲あふれる、はつらつとした抱負を読ませていただき、大いなる情熱に大変感銘を受けました。私共も、病院の方向性や院内業務改善、整備など力を入れてきたつもりですが、さらに勇気づけられました。

この医療行政の厳しさの中、当病院のような中長期入院を要する老人医療を目指すものには、生き残りさらなる発展が最重要課題です。判断と決断と強いリーダーシップでのもに進まねばなりません。職員と大きく志を一つにして、頑張りたいと思っています。

私たち新中川病院は、“地域連携を強化した高齢者医療のセンター病院化”を目指します。

老人を地域全体で見る医療圏、コミュニティーづくりに役立つ、病院を作りたい。病院構想を具体的に述べると

- 1、療養病床は、終末期医療や緩和ケアに充てる。一般病床を増やし、治療機能を特化し、入院期間を短縮し、寝たきり防止に取り組む。
- 2、リハビリ部門の充実：在宅におけるリハビリサービスの質・量ともに高める。家庭や施設でリハの教育・指導を強化する。通所リハを施行したい。
- 3、病院の施設（リハ室など）を地域へ開放し、情報発信と交流を深める。
- 4、ボランティアの活用
- 5、地域連携室を立ち上げる：医療相談の幅を広げる基地にしたい。
- 6、クリニックと病院機能（CT、エコー等）の共有化を図り、短期入院、緊急入院などの受け入れを促進し、オープンホスピタルのような体制を目指したい。

7、最後に魅力ある病院づくりをし、患者さんも職員も集まる職場にしたい。

厚生労働省は、“寝たきり老人”と“病気老人”を区別する方向に進め、療養型病床群の整理縮小が始まっています。“病気”なのか“寝たきり”なのか解らない曖昧な状況で、入院してきた人たちへの対応がはっきりとする点で正しい方向と言えるでしょう。

老人医療の専門家はいません。確立されたものは何もなく、初めて経験する進行形の医療だからです。

未開の分野で、日本中で日々の経験がこの医療を作り上げています。老人の入院が“寝たきり”を増やしてきた事実は否めません。治療や看護にメリハリをつけ、少しでも良くなったら、離床の方向へ向ける。“寝たきり”の方向はもうやめましょう。そこで、看護師さんの皆さんへの要望として、次のことをお願いしたい。

安静は必要か

意識の無い患者に声を掛ける

一日一回心からの笑顔を向ける

痛くても体操を

経管・胃瘻の患者でも座って食事を

女性には化粧を

毎日鏡で自分の顔を見せる

お気に入りの服装や病衣で

“寝たきりにさせないぞ” “ならないぞ”という熱意と意欲で免疫力が高まり、いきいきと楽しく生きられるのです。

医療・看護の努力で、癒しの治療、前向きな明るい入院生活を実現しましょう。

# ほうゆう病院 8月3日 実務研修開催

タクティールケアの体験講習会が、日本スウェーデン研究所のグスタフ、ウォレ、アンソニー女史、日本人スタッフ2名の講師により行なわれました。

タクティールケアとは一見するとタッチセラピーで、皮膚と皮膚を通してのコミュニケーション。包み込むように触れることが大切との事です。発祥は、スウェーデンの現シルビア王妃が、母親の認知症の発症を期に設立した王立財団法人シルビアホームにおける「認知症緩和ケアプログラム」の1つです。



ウオレ氏によるスウェーデンの取り組み説明

「タクティールケア」をご存知ですか？



研修参加者の体験場面

スウェーデンではデイケア、グループホーム、ナースィングホームで認知症に対してのコミュニケーションツールとして確立されています。

当病院で、今回認知症患者さんのコミュニケーション能力の向上、攻撃性、自虐性の減少、リラクゼーション、安眠効果等に注目し、体験講習会を行ないました。

今後はさらにリーダー研修の予定もあります。

リポーター：松田 隆



## 新中川病院 院内研修

「ストレスのセルフコントロール」～ABC理論を用いて～

ストレスはいかに避けるかではなく、ストレスといかに付き合うかという視点で、臨床心理士の資格を持つ当院の加濃正人医師に講師を依頼し、「ストレスのセルフコントロール」についての研修会を実施しました。（出席者41名）

イソップ童話「酸っぱいブドウ」からきつねのとった合理化について、私たちの行動に置き換えての説明はとてもわかり易い内容でした。

ABC理論（詳細は又の機会）について、感情や行動の障害を引き起す原因のほとんどは出来事ではなく、非合理的な信念によるものである（絶対的で妥協の余地が無い～ねばならない）・合理的な信念（相対的で妥協の余地がある～のほうがいい）きつねの取った行動？その後グループワークでの事例検討を行いさらに理解を深

めた。

研修後の感想：

- ・生活の中で一呼吸置いてみようと思う。
  - ・楽しくて時間があっという間でした。
  - ・前向きで建設的な生き方が大事等など・・・
- 加濃先生の包み込むような思いやりを持った優しさがとても好評でした。

リポーター：三浦 満喜子

